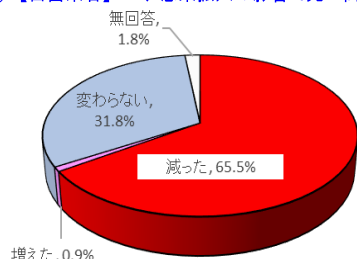


<2020 年秋 消費者の暮らし向きに関するアンケート 調査結果より>

経済的影響は自営業者に厳しく

コロナウィルスの感染が拡大してからの経済的な影響を収入形態別に聞きました（内訳：自営業 11.6%、給与所得者 57.9%、年金所得その他 29%）。自営業では、売上高が『減った』と回答した人は 65.5%と半数以上である一方、給与所得者では、収入が『減った』と回答した人は 18.1%、『変わらない』が 78.6%と、経済的な影響は自営業者に大きかったことを示す結果となりました（図 1-①・②）。「今、またはこれから生活に困窮する心配がありますか」の問いでも、自営業者がより厳しい見方をしていることがわかります（図 2-①・②）。

図1-①【自営業者】コロナ感染拡大の影響で売上高は



減った割合	件数	比率
1	2	2.8%
1.5	2	2.8%
2	6	8.3%
2.5	1	1.4%
3	11	15.3%
4	6	8.3%
4.5	1	1.4%
5	10	13.9%
6	5	6.9%
6.5	1	1.4%
7	2	2.8%
8	3	4.2%
9	2	2.8%
10	1	1.4%
無回答	19	26.4%

図2-① 今、またはこれから生活に困窮する心配がありますか

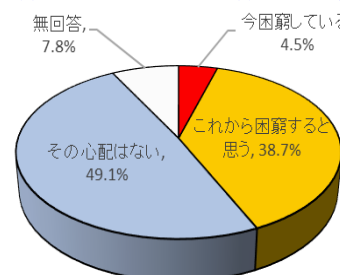


図1-②【給与所得者】コロナ感染拡大の影響で収入は

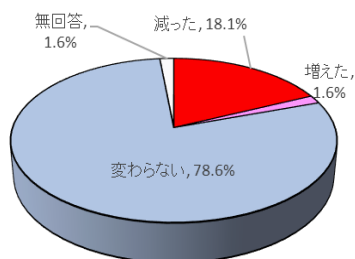
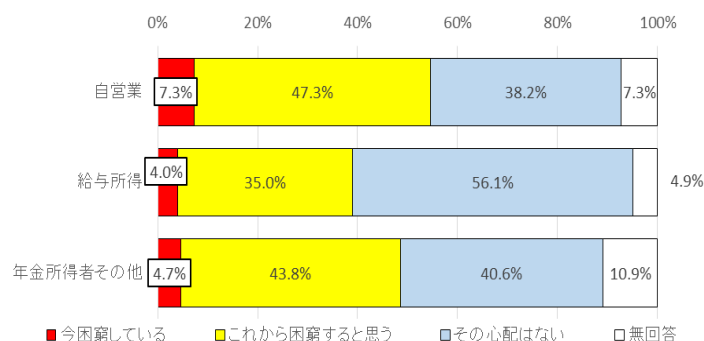


図2-② 収入形態別 今、またはこれから生活に困窮する心配がありますか



コロナ禍での消費生活は

コロナ禍の中での消費生活などについて聞きました。「利用が増えたもの」では、通信販売、料理のテイクアウト、買物の宅配サービスが上位となりました（図3）。「新しく利用したもの」は、料理のテイクアウト、オンライン講座、を挙げる人が多い（図表4）という結果になりました。外食が出来ないことや、休校や自宅勤務による家事負担増に言及する人が多く、その解決策の一つとして利用したいと思う消費者が多かったようです。

「特別定額給付金の使いみち」で一番多かったのは、生活費繰り入れでした（図表5）。「その他」で目立ったのは、税金、家族や親族への援助です。少数ですが、寄付という意見もありました。

図3 利用が増えたもの

順位	利用が増えたもの	件数	比率
1	通信販売	353	37.1%
2	料理のテイクアウト	264	27.7%
3	買物の宅配サービス	245	25.7%
4	オンライン講座	94	9.9%
5	動画・映画等の有料配信サービス	86	9.0%
6	料理のデリバリー	29	3.0%
7	通信教育	24	2.5%
8	ネットバンキング	18	1.9%
	その他	17	1.8%
	無回答	305	32.0%

図4 新しく利用したもの

順位	新しく利用したもの	件数	比率
1	料理のテイクアウト	192	20.2%
2	オンライン講座	125	13.1%
3	通信販売	67	7.0%
4	買物の宅配サービス	64	6.7%
5	動画・映画等の有料配信サービス	48	5.0%
6	料理のデリバリー	34	3.6%
7	通信教育	23	2.4%
8	ネットバンキング	15	1.6%
	その他	9	0.9%
	無回答	491	51.6%

図5 特別定額給付金の使いみち

順位	特別定額給付金の使いみち	件数	比率
1	生活費繰り入れ	296	31.1%
2	貯蓄	217	22.8%
3	耐久消費財	193	20.3%
4	使っていない	111	11.7%
5	食に関する特別な出費	64	6.7%
6	教育に関する支出	56	5.9%
7	趣味・レジャー	50	5.3%
8	洋服かばんなど服飾雑貨	47	4.9%
9	借入金返済	26	2.7%
10	投資	8	0.8%
	その他	66	6.9%
	無回答	114	12.0%

*すべて複数回答